

2023年度(令和5年度)

事業計画書

自 2023年4月1日

至 2024年3月31日

公益社団法人日本ローイング協会

[2023年度(令和5年度)事業方針]

今年度は、「Japan Rowing Vision 2020」を基本方針として策定した各委員会の中期事業計画の二年目を迎える。計画した諸事業において昨年度に続き更に具体的かつ確実な前進とその成果をあげていきたい。特に、パリ2024オリンピック・パラリンピック（以下パリ2024）の出場枠獲得に向けた重要な年となることから、総力を挙げて目標を達成すべく邁進する。また、「海の森水上競技場」のレガシー活用として、今年度も「第101回全日本選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」を同会場で開催する。加えて、地元江東区や隣接する区、ならびに東京都ローイング協会、日本カヌー連盟、東京都カヌー協会と共に海の森総合型地域スポーツクラブの設立に関し社員として参画し、クラブの事業運営にも積極的に携わってきたい。

1.「日本の地域社会でローイング競技の普及を図る」に関する事業

国内で楽しく安全なローイングの機会を提供することにより、ローイング人口の増大を図る仕組みの構築を継続する。また「パラローイング」、「インドアローイング」および「コースタルローイング」の普及も含めた広範囲に亘る推進策を継続するとともに、都道府県ボート協会ならびに全国ボート場所在市町村協議会との連携をさらに強め、各地域における普及活動の支援を強化する。

2.「ローイング選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

今年度は、パリ2024の出場枠獲得がかかる世界選手権を最優先目標とする。また、前回より多くのメダル獲得を目標にアジア競技大会に向け体制を強化・充実させ取り組んでいく。加えて、オリンピックにおける軽量級種目がなくなる可能性があることから、2028年ロサンゼルス大会を見据え将来に向けたオープン種目およびスweep種目の強化を更に推進する。

また、中長期的視点に立ちジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上に向け、タレント発掘育成事業の更なる充実と七年目を迎えるJOCエリートアカデミー事業を継続するとともに、日本スポーツ振興センターの指導のもと、ローイング版FTEMの策定に着手する。

3.「ローイングの全日本選手権大会及びこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

今年度は、5月の全日本選手権大会をはじめとして11大会を本会主催大会として開催する。前述の通り2大会を「海の森水上競技場」で開催する予定だが、来年度以降の更なる活用に向け同会場による大会開催ノウハウの蓄積および東京都や指定管理者とのより良好な協力関係を構築・継続する。また、コースタルローイングについても本会主催の大会開催に関する取り組みを進める。

4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

今年度も公平な派遣選手選考を行い、世界選手権を中心にワールドカップⅡ・ⅢやU19・U23など各世代の主要な国際大会に選手団を積極的に派遣する。また、昨年より延期となったJOC派遣大会の第19回アジア競技大会（9月：中国・杭州）およびFISU世界大学競技夏季大会（8月：中国・成都）へも選手団を派遣する。

5.「ローイング競技の諸規則・諸規定の制定及びコース・競技用具の審査と検定」に関する事業

競漕規則・細則については、国際ローイング連盟（World Rowing）の改定に合わせ必要に応じて見直しを実施する。また、ローイングコースの新規・更新認定業務を都道府県協会やコース管理自治体などと協力して引き続き実施する。

6.「その他の重要な事業」

本会の喫緊の課題である財政基盤の立て直しを遂行する為、予算管理の徹底と新たな収入源の確保及び既存収入源に関する根本的見直しと改善を行う。また、スポーツ団体ガバナンスコードについても実情の的確な把握と改善に取り組み、ガバナンス強化を更に推進する。

[2023年度(令和5年度)事業計画]

1. 競技本部関係事業

(1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

①競漕大会開催について

・今年度は主催大会として、以下の大会を開催する。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月18日(木)～21日(日)	第101回全日本ローイング選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
6月3日(土)～4日(日)	第14回全日本マスターズレガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
6月24日(土)～25日(日)	第73回全日本社会人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月22日(土)～23日(日)	第43回全日本中学選手権競漕大会	福井県三方郡美浜町 久々子湖漕艇場
7月28日(金)～31日(月)	第71回全日本高等学校選手権競漕大会	北海道網走市 網走湖ボートコース
9月6日(水)～10日(日)	第50回全日本大学ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月9日(土)～10日(日)	第63回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月21日(木)～24日(日)	2023年特別国民体育大会ローイング競技	鹿児島県鹿屋市 輝北ダム特設ローイングコース
10月13日(金)～15日(日)	第64回全日本新人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月29日(日)(予定)	TOKYO2020開催記念レガッタ	東京都江東区 海の森水上競技場
2024年 3月22日(金)～24日(日)	JOCジュニアオリンピックカップ 第35回全国高等学校選抜ローイング大会	静岡県浜松市 天竜ボート場
未定	第2回バーチャルインドアローイング大会	未定

※全日本選手権大会は軽量級種目を含めて開催する。

※TOKYO2020開催記念レガッタ・バーチャルインドアローイング大会は普及委員会が主管する。

②インドアローイングについて

- ・昨年度再開したA大会(全国9ブロック)およびB大会を開催する
- ・2023年度大会の成績優秀者をアジアインドア選手権大会に派遣する。
- ・インドア大会の開催方法について検討する。

③競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2023年度の競技団体および競技者の資格決定を行う。
- ・2023年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握する。

(2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについてコース認定を実施する。

・2023年度更新認定コース

都道府県	コース名	級	レーン数	距離 (m)
北海道	茨戸漕艇場	C	3	1,000
北海道	網走湖ボートコース	C	4	1,000
岩手県	錦秋湖漕艇場	C	4	1,000
宮城県	長沼ボート場	A	8	2,000
山形県	京田川ボート場	C	3	1,000
福島県	県営荻野漕艇場	B	6	1,000
新潟県	津川漕艇場	B	6	1,000
静岡県	佐鳴湖漕艇場	C	8	1,000
和歌山県	美山漕艇場	C	4	1,000
広島県	芦田川漕艇場	A	6	2,000
長崎県	形上湾ボートコース	B	6	1,000

(3) 競漕艇の計測に関する事業

2023年特別国民体育大会、第71回全国高等学校選手権及び第35回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行う。

(4) 海の森水上競技場に係わる事業

①レガシー活用の観点から、今年度は同会場において「第101回全日本選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」を開催する。

②海の森水上競技場を拠点とした総合型地域スポーツクラブを東京都ローイング協会と連動して法人設立を行い、施設整備および運用システム構築を関係先と連携し確立する。

(5) 審判に関する事業

①審判業務

・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行う。

・強化委員会による日本代表選考レースに審判を派遣し審判業務を行う。

②審判員養成事業

・国体及びインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成のため、C級審判を現在の1,562名から1,700名に底上げを図る。

・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行う。

研修会名称	開催時期	開催場所
第91回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	6月	埼玉県・戸田
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田

2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

①基本方針

2023年シーズンは、パリ2024でのメダル獲得を目指す上で重要なシーズンとなる。東京2020後の強化戦略を具現化し、パリ2024への出場権獲得及び上位進出への足がかりを作るシーズンであると同時に、次世代のオリンピック日本代表選手を育成するシーズンでもある。また本年は、幅広い選手の育成と国際大会への積極的な派遣と各大会で決勝進出を果たすべくその仕組みおよび支援体制を確立する。

②具体的活動計画

1) 日本代表選手及び所属団体における強化メソッド実施

- ・代表チームと所属団体間における、トレーニング方法(強化メソッド)の共有化を図る。
- ・サポートコーチ制度を継続し、代表チームのコーチと所属団体のコーチのトレーニング方法の共有を図る。

2) 代表チームの識別

- ・日本代表チームのA代表とB代表の識別化を図り、A代表においては世界選手権、アジア競技大会、オリンピックへ向けた強化を、B代表においてはアジア選手権など次世代アスリートの育成を目的とした強化を行う。

3) オープン、スウィープ種目強化事業

- ・アジア競技大会でのプレゼンスの確立やロサンゼルスオリンピック以降の日本代表選手育成のためオープン種目の更なる強化を図る。
- ・オープン種目における世界へのチャレンジ機会を増やし、B代表の国際大会への派遣を積極的に実施する。

4) サポートコーチ制度の拡充

- ・所属団体からのサポートコーチを積極的に受け入れ、代表チーム及び所属チームにおける継続指導を実現する。
- ・次世代指導者育成という観点でも、サポートコーチ経験者の中から次世代の日本代表チームコーチを育成していくことも視野に入れる。

5) コンディションに対する所属チームへのフィードバック

- ・所属団体に対しての選手のコンディションをフィードバックし、所属団体との連携を強化する。

6) 協会内組織連携

- ・アスリート委員会、医科学委員会、パラローイング委員会との横断的な連携により、より快適なチーム環境を構築する。

7) 継続強化

- ・タレント発掘・育成事業を継続し高身長、高フィジカルな選手の発掘を目指す。
- ・U23選手へのサポートを拡充させるとともに、ジュニアからシニアへの一貫したアスリート育成パスウェイの構築、そしてメダルポテンシャルアスリート(MPA)、そしてその予備軍であるポテンシャルアスリート(PA)制度の運用を本格化する。

③強化合宿及び大会派遣計画について

【シニア】

事業名	実施場所	予定期間
4月合宿	埼玉県・戸田	4月1日(土)～4月19日(水)
5月欧州遠征	欧州	5月1日(月)～5月31日(水)
仏・事前合宿①	フランス	6月1日(木)～6月13日(火)
ワールドカップⅡ	イタリア・バレーゼ	6月14日(水)～6月18日(日)
仏・事前合宿②	フランス	6月19日(月)～7月4日(火)
ワールドカップⅢ	スイス・ルツェルン	7月5日(水)～7月11日(火)
7月合宿	岩手県・田瀬湖	7月24日(月)～8月19日(土)
仏・事前合宿③	フランス	8月20日(日)～9月2日(土)
世界選手権	セルビア・ベオグラード	9月3日(日)～9月11日(月)
8月合宿	埼玉県・戸田	8月20日(日)～9月10日(日)
アジア競技大会	中国・杭州	9月15日(金)～9月26日(火)
10月合宿	埼玉県・戸田	10月24日(火)～10月30日(月)
11月合宿①	埼玉県・戸田	11月1日(水)～11月11日(土)
11月合宿②	埼玉県・戸田	11月21日(火)～12月2日(土)
12月合宿	埼玉県・戸田	12月12日(火)～12月23日(土)
1月合宿①	長野県・木島平	1月9日(火)～1月12日(金)
1月合宿②	埼玉県・戸田	1月12日(金)～1月26日(金)
1月海外遠征	オーストラリア	1月16日(火)～2月13日(火)
2月合宿	埼玉県・戸田	2月6日(火)～2月24日(土)
3月合宿①	埼玉県・戸田	3月1日(金)～3月15日(金)
3月合宿②	埼玉県・戸田	3月19日(火)～3月31日(日)

【U23・FISU 世界大学競技夏季大会 (WUG)】

事業名	実施場所	予定期間
U23 世界選手権	ブルガリア・プロプティフ	7月19日(水)～23日(日)
WUG	中国・成都	8月6日(日)～8日(火)

(2) タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

①基本方針

1) 海外育成拠点モデル事業

- ・ポテンシャルアスリート (MPA) の育成に向け、有望なタレント育成選手の海外レース・合宿への派遣を積極的に行い、経験値向上を目指す。

2) 国内育成モデル事業

- ・タレント育成選手の国内合宿をおこない幅広い強化を図る。

3) 発掘育成拠点化事業

- ・ローイング選手の発掘・育成に向け国内拠点の整備と普遍的なシステム構築に向け全国各地における拠点化の整備を行う。

4) 発掘モデル再構築事業

- ・アスリート育成パスウェイに沿ってトライアウト1次選考・2次選考を実施する。

5) JOCエリートアカデミー事業の継続

- ・アスリート育成パスウェイの重要な事業の一つとして活用し、修了生のフォローも継続して行う。

②具体的活動計画

1) タレント発掘海外遠征計画

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
5月	欧州遠征	調整中	MPA・PA
6月	フランス選手権	フランス	U21オープン・タレント
6月	Holland Becker	オランダ	WUG・U21
8月	U19世界選手権	パリ・フランス	U19
1～2月	海外合宿	調整中	MPA・PA
3月	Sydney国際レガッタ	オーストラリア	U23・U21

2) MPA (WUG・U23・U21) 強化育成合宿

実施月	実施事業	実施場所	対象選手
4月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23
6月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23
7月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23
8月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23
11月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
2月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21

3) JOCエリートアカデミー (EA) 事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
6月	フランス選手権	フランス	EA
6月	EA育成合宿	フランス	EA
2月	EA17期生育成合宿	調整中	EA

4) 有望選手発掘事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
12月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	有望選手候補
1月	有望選手発掘育成合宿	長崎県・本名川	有望選手候補

5) タレント育成合宿

実施月	実施事業	開催地	対象選手
4月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
5月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント

6月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
7月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
8月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
10月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
11月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
12月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
1月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
2月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
3月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント

(3) 医科学に関する事業

新型コロナウイルス感染症の蔓延継続状況を踏まえ、より安定的な医療従事者の確保及び協力関係を確保し、円滑な大会運営医療業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングに継続して貢献する。また昨年度、新設したトレーナー部会の活動をより積極的に行う。

①メディカルサポートに関する事業

- ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権）に医師ならびに看護師を派遣し、救急医事業務を行う。
- ・国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師並びにトレーナーが帯同し選手のコンディショニング維持、改善および指導を行う。
- ・特にトレーナー部会においては、コンディショニングに関する知識を普及するために、指導者と選手を対象に随時講習会を開催し、またホームページを利用した広報活動を行う。

②コロナ禍における活動

- ・大会開催に際し新型コロナウイルス感染症の状況に応じた新型コロナウイルス感染症対策計画をタイムリーに立案する。
- ・大会前後及び開催期間中における対応体制を取るとともに大会関係者に対する感染症指導及び管理業務を行う。

③競技用具の審査と検定に関する事業

- ・本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査および原簿登録に係わる業務を行う。
- ・2023年特別国民体育大会、第71回全国高等学校選手権、第35回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行う。

(4) 指導者育成に関する事業

日本スポーツ協会と共に、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできる公認スポーツ指導者を増やし、その質を高め、活躍の機会を広げることで誰もがスポーツに親しむことのできる社会の実現に貢献する。

①公認スポーツ指導者養成事業

公認資格指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認スタートコーチ、コーチ1、および3養成講習会について以下の日程で講習会を開催する。また新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オンラインによる講習会も実施する。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ3養成講習会	前期座学：8月11日～13日 後期座学：11月3日～5日 実技：11月25日～11月26日	座学：オンライン 実技：岐阜県/川辺漕艇場
公認コーチ1養成講習会	前期座学：8月5日～6日 後期座学：8月19日～20日 実技：11月18日～19日	座学：オンライン 実技：鳥取県/錦海ボートコース
公認スタートコーチ	5月6日（土）	静岡県浜松市 佐鳴湖漕艇場
資格更新義務研修 および コーチカンファレンス	未定	・都道府県ボート協会主催研修
	未定	・高体連主催研修
	未定	・オンラインとのハイブリッド

② コーチミーティングおよびコーチカンファレンス

指導者の質を高め活躍の機会を増やすため各委員会と連携し、コーチミーティングおよびコーチカンファレンスを開催する。

(5) アスリートに関する事業

以下事業を着実に実行し、アスリートの視点に立った提言及び関係事業へ参画する。

① トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映

- ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を積極的に行う。
- ・強化合宿等の強化活動に関するアンケートを集約し、環境改善につながる提言を行う。

② 本会主催諸事業に協力しローイング競技の普及と発展に貢献

- ・ローイング競技ならびにアスリートの地位向上のため、パリ2024に向けた広報活動や講演活動に積極的に参画する。
- ・スポンサー企業の協賛活動に積極的に参画する。
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を安全環境委員会と協働して企画し、大会開催時等に実施する。

③ 次世代日本代表コーチ育成活動

- ・代表コーチを目指す人材の拡大を目標とした「ナショナルコーチ体験プログラム」をオリンピック周期で定期的実施する。
- ・ナショナルコーチ体験プログラム参加者のスキルアップを目的とした育成プログラムを定期的実施し、ナショナルチームに人材を送り込める体制を確立する。

④ トップアスリートのセカンドライフの支援

- ・トップアスリートが引退後も継続的にローイング競技や協会の活動に携われるようサポートを行う。

3. 普及本部関係事業

(1) 普及に関する事業

① 総合型地域スポーツクラブ（SC）の設置および既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ボート協会及び全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域の

ローイング普及環境の整備の一助とする。

- ・海の森水上競技場のレガシー活用の一環として東京都ローイング協会を中心に設立される総合型地域スポーツクラブ（SC）の運営および諸活動を支援する。

②ジュニア層のローイング人口増及び活動支援

- ・中学生および高校生のローイング競技振興を図るため、全国中学校ボート連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し、助成金交付と支援を継続して行う。
- ・特に中学生のローイング人口拡大に向けたアプローチを重点的に実施する。

③ TOKYO2020開催記念レガッタの開催

- ・普及の目的で、海の森水上競技場で10月に開催する。

④前年度に試験的に実施したバーチャルインドアローイング大会を正式競技とすべく、日程や方法に関し各関係先および本会内で検討を進め次回の開催を計画する。

⑤全国ボート場所在市町村協議会との協力関係推進

- ・協議会主催会議並びに行事に積極的に参加し、協議会との関係強化を図る。

⑥オリンピックの会に関する活動

- ・JSC助成事業として、ローイング競技普及を目的に「オリンピックとエルゴファイト」を海の森水上競技場他で開催する。

(2) 広報に関する事業

全国的なローイング機会拡大とローイング人口の拡大に向け、広範に適時適切な情報発信を行う。

① より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行

- ・今年度も、本会機関紙「ROWING」を6回発行する。
- ・同時に内容の刷新と編集経費の見直しを図る。

② 本会ホームページの改善とSNSの活用

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを図る。
- ・より見やすく、検索しやすく、発信しやすいとの観点から改善に向けグランドデザインを検討・刷新する。
- ・Facebookの活用に加え、その他SNSメディアの活用を検討、実施する。

③ 報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・普及およびスポンサー獲得のためのメディア露出を目的とした、情報配信をより積極的に行う。
- ・東京運動記者クラブはじめ各報道機関ならびに出版業界との関係を密にし、協会体制およびコースタルローイング等のタイムリーな情報発信に努め、報道を通じて本会の活動の広報に取り組む。

④ 情報源としての全国的サポートネットワークの作成

- ・ブロックリポーター制度を復活する。

⑤ 写真コンテスト「ボートのある風景」の実施

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しながら適切に実施する。

(3) 安全環境に関する事業

以下の活動を通じて、ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを適時行う。

① セーフティアドバイザー（SA4）制度の活性化と研修の実施

- ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図る
- ・研修会の実施

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー研修	1月	埼玉県・戸田市
セーフティアドバイザー研修	2月	北陸ブロック（予）

② 各種ガイドライン及び規程類の策定整備とローイング水域の環境整備

- ・ローイング競技における環境ガイドラインの策定
- ・「安全マニュアル」の改定を行う
- ・コースタル「安全マニュアル」の策定、改定への助言を行う。
- ・競漕規則及び細則の改定に合わせた改定
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を企画し、大会開催時等にアスリート委員会他と協働して実施する。

③ 全日本選手権大会における水上レスキュー体制の実施

- ・5月 海の森水上競技場

(4) コースタルローイングに関する事業

国内におけるコースタルローイングの基盤作りを継続するとともに、2028年ロザンゼルスオリンピックを見据えた、選手選考およびJOC派遣大会への選手派遣事業に着手する。

① 水域および拠点の整備と開拓

- ・体験会および主催大会の開催により国内各地における普及を図る。
- ・国内における普及拠点の確立を図る～関東・中京・四国・九州地区。

② シリーズカップの新設

全国で開催しているビーチスプリント大会を拡大し、上位選手のポイントランキングを通じて観る側の価値向上、対外PRおよび選手評価の中心施策とする。

③ 安全対策

- ・危険性を伴う海のスポーツとして水難事故ゼロを目指しコースタル「安全マニュアル」を策定し、以後必要に応じて改定する。
- ・GPSキットの導入を検討する

④ 自主財源の確保

- ・コースタルローイング事業基盤の確立のための方策を検討し実施する。

4. パラローイング本部関係事業

(1) 基本方針

- ・パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築する。
- ・2024年パリパラリンピック出場権の獲得

(2) 基本計画

- ・国際競争力を強化し2024年パリパラリンピックへの複数種目出場と入賞を目指す。
- ・競技拠点について現在の相模湖漕艇場以外の拠点づくりを推進し競技の普及を図る。

- ・J-STAR 等による選手発掘に努め、指定選手数を拡大する。
- ・コーチ、スタッフの増員により、サポートを拡充する

(3) 具体的活動

①国内合宿

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	4月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
6月	6月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
9月	9月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手

②国際大会派遣

新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しつつ以下の国際大会に選手団を派遣する。

派遣期間	大会名	開催地
9月	世界選手権	セルビア・ベオグラード
10月	アジアパラ競技大会	中国・杭州

③乗艇体験会の実施

- ・普及活動として、神奈川県相模湖等において乗艇体験会を実施する。

5. 管理本部関係事業及び独立委員会事業

(1) 国際関係事業

- ①国際大会への審判派遣…今年度は以下の国際大会に審判員を派遣する。

[World Rowing/FISU 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
世界インドアローイング選手権	カナダ トロント	2/25～26	千田隆夫 (バーチャル参加) 田畑喜彦 (スペア)	岐阜 愛知
世界 U19 ローイング選手権	フランス パリ	8/2～6	山崎佳奈子	東京
FISU 大学競技夏季大会 (ローイング)	中国 成都	8/4～6	千田隆夫 成田泰久 松田雅彦 (スペア)	岐阜 東京 神奈川

世界ローイング選手権	セルビア ベオグラード	9/3～10	隈元幸治 (スペア)	神奈川
------------	----------------	--------	---------------	-----

[ARF 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
未定				

[OCA 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
アジア競技大会 (ローイング)	中国 杭州	9月下旬	未定	
アジアパラ競技大会 (ローイング)	中国 杭州	10/2～28	未定	

②World Rowing および ARF 総会への代表者派遣

- ・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣する。

会議名	会議日程	開催国・会場地
国際ローイング連盟(WR)通常総会	9/11	セルビア・ベオグラード
アジアローイング連盟(ARF)総会	9/23	中国・杭州

③JOC 国際人養成アカデミーへの受講者派遣

- ・将来国際ステージで活躍できる人材育成を目的に、同アカデミーの受講者を募る。

④国際大会開催支援

- ・2026年愛知名古屋アジア競技大会の開催に向け、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会及び地元中部ボート連盟、愛知県ボート協会と連動し、開催に関する支援を実施する。

(2) 財政基盤強化に関する事業

①助成金について

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田ボートレース事業者ならびにその他団体に対し本会の諸事業の目的および重要性について理解を求め、継続的且つ安定的な支援をお願いする。

②事業収入の見直しについて

- ・各種事業収入の単価を昨年度改定したが、その他の収入に関しても引続き見直しを検討して財政基盤の強化につなげる。

④ マーケティング戦略の構築を検討

- ・昨年12月に専門セクションとして「マーケティング部会」を総務委員会内に設置したが本会内のマーケティング活動を横断的に取りまとめ、本格的な活動を開始する。
- ・JOC/NFジョイントマーケティングに参加し2年目になる今年度、更なるスポンサーと協賛金の獲得に努める。
- ・新ビジョンに基づき本会の事業価値を抜本的に見直し、マーケティング戦略の構築を目

指すとともに、中期的な財務立て直し計画に貢献する。

④情報プラットフォームの見直し

- ・「みる人」「する人」「支える人」を一元管理しローイングの価値向上を通じて経営基盤の強化を図るため、スポーツ庁の助成を得て2025年度本格運用開始を目指して新たな情報プラットフォームを構築する。

(3) ガバナンス強化に関する事業

前回の加盟上部団体 (JSP0、JOC、JPSA) による本会のガバナンスコードの適合性審査では、要改善事項の該当はなしとの結果であったが、より一層の体制強化を継続する。

①公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として本会運営を行うために、必要な各種規定類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施する。

②コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場ならびに本会役職員に対するコンプライアンスおよびインテグリティ教育に関し、JOC等主催の研修会や講習会への参加による啓蒙活動を継続するとともに、本会内においても独自に研修の機会を設けて意識の徹底を図る。
- ・本会の「協会弁護士による研修会」制度を所属団体等に働きかけ継続する。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に広げ、アンチ・ドーピングに関する教育及び啓蒙の強化を図る。

①ドーピング検査受入

- ・JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れるとともに合わせてサポート業務を行う。

②ドーピング防止啓発活動

- ・研修講師向け「クリーンスポーツエデュケーター資格」取得のための講習会を今年度より新たに実施する。
- ・強化指定選手 (パラローイングを含む) を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会の実施。
- ・U19およびU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会の実施。
- ・各地域大会 (朝日レガッタや国体地区予選など) におけるアンチ・ドーピング研修会の実施。
- ・アウトリーチ活動の実施～全日本選手権、全日本新人、朝日レガッタ開催時に計画。

(5) 企画戦略に関する事業

- ・「新ビジョン」の推進・実現に向けて本会の現状分析と課題を整理し、各委員会とも連携し中期事業計画の横断的進捗管理を図る。また、併行して中期事業計画の精査および軌道修正など本会の方向性に関し提案する。
- ・スポーツ・インテグリティ (誠実性・健全性・高潔性) 推進にむけて、各委員会との情報交換を密に行い重要性の周知を徹底する。
- ・2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシー全般の推進に関すること。

- ・海の森水上競技場におけるレガシー推進計画の企画・立案および関係先との調整を図る。
- 以上